

欠席される委員のご質問・ご意見への回答

[倉阪秀史委員]

No.	箇所	ご意見	回答
(1)	資料1 P6, P9, P14, P18	プラスチック資源専用指定袋の袋面を活用した啓発は有効であるので、トレーなどそのまま拠点回収に出せるものを袋に混入させないように袋に記載するなど、「質の高いリサイクルルート」について啓発するのがよい。	ごみ減量のためのちばルール of 仕組みを活かした質の高いリサイクルルートを有効に活用できるよう、市民の皆様への効果的な周知啓発を行います。
(2)	資料1 P14, P18	リデュース・リユースの取組みについては、千葉市内の流通業者と協働し、流通業者のオリジナルブランドの取組みをすすめること、流通業者から生産者に働きかけをしていただくこと、店舗でイベントなどを実施することなどを実施してはどうか。	リデュース・リユースの施策を強化していくため、ごみ減量のためのちばルール協定店等との積極的な連携について検討してまいります。

[市原秀一委員]

No.	箇所	ご意見	回答
(1)	資料1 P4, P9, P11	収集運搬体制についてですが、プラスチック資源の収集日を決定するにあたっては、パッカー車の稼働効率を高めるために、現在、月曜日から金曜日まで実施している古紙・布類のステーション回収を土曜日も含めて行い、各曜日の収集に必要なパッカー車の台数を平準化したほうがよいと思います。	収集運搬効率を高めることは重要であり、収集運搬計画を作成する際に、町内自治会や収集運搬事業者等と十分協議しつつ検討します。
(2)	資料1 P6, P14, P18	「将来の単一素材製品プラスチックの回収・処理方法」について、現在、環境事業所等で実施している単一素材製品プラスチックの回収については、市民のリサイクル意識の醸成に役立ちますので、プラスチック分別収集の実施後も継続したほうがよいと思いますが、回収に伴う費用対効果も考慮して、拠点を環境事業所に限定するなど、縮小したほうがよいと思います。 一方で、民間事業者の行う拠点回収については、連携を強化しながら、継続実施したほうがよいと思います。	単一素材製品プラスチックの拠点回収については、リサイクル意識の向上のほか、良質なプラスチックによる効率的なリサイクルという側面もあることから、費用対効果を踏まえながら、回収拠点配置を総合的に検討します。
(3)	資料1 P7, P8, P18	リチウムイオン電池等の資源化対策についてですが、ハンディファンなど、リチウムイオン電池が一体化した製品が、プラスチック資源として排出された場合、パッカー車等で火災が発生する恐れがあります。 このため、リチウムイオン電池や、リチウムイオン電池と一体化したプラスチック製品については、有害ごみとしてステーション回収し、不適正排出によるパッカー車等の火災を防止したほうがよいと思います。	リチウムイオン電池等は、環境事業所等での拠点回収を実施していますが、電池と一体化したプラスチック製品もあることから、不適正排出を抑制する方法を検討します。

[飯田俊夫委員]

No.	箇所	ご意見	回答
(1)	資料1 P3, P18	プラスチック資源の分別に際し、古紙等の資源物の分別徹底も併せて周知し、分別拡大の相乗効果が得られるようにすべきである。	ごみ減量・再資源化のまたとない機会であり、古紙等の分別徹底についても周知啓発を行います。
(2)	資料1 P4, P5	モデル地区でのアンケート結果から、素材に着目した「プラスチック一括回収」が支持されており、将来の協力意向も高い割合で賛同を得ている。ごみステーションで週1回の収集は、収集運搬量の面、ごみステーション管理の面からも妥当であり、何よりも市民にわかりやすいので、これを基本に仕組みを構築することでよいと考える。	多角的な視点から、最適な分別・再資源化の仕組みづくりに努めてまいります。
(3)	資料1 P4, P9, P11	家庭ごみの収集曜日は地域ごとに決められており、市民生活に定着している。収集運搬の効率化を図るという視点から、町内自治会等と十分協議した上で、収集曜日を一部変更することも検討してはどうか。	収集運搬効率を高めることは重要であり、収集運搬計画を作成する際に、町内自治会や収集運搬事業者等と十分協議しつつ検討します。
(4)	資料1 P9	早期に分別が定着し、分別徹底が図れるという点で、プラスチック資源用指定袋をうまく活用していくことがよい。 デザインを公募するなど、市民に親しまれ、話題となるような袋となることを期待する。	市民の皆様の御理解と御協力をいただき、プラスチック資源収集の協力率を高め、品質向上が図れるよう、様々な工夫を検討します。
(5)	資料1 P12, P13	再商品化計画によるルートを活用する場合、市内近隣の再商品化施設が活用できるのであれば活用の可能性について検討していくことが望ましい。その場合、事業者と詳細協議を行い、安定的かつ環境にやさしい処理ができることを十分確認することが必要になる。	本市で想定されるプラスチック資源の量や性状、地理的な状況等も踏まえつつ、プラスチック資源のリサイクルルートの構築に向け、関係事業者と協議してまいります。
(6)	資料1 P14	3Rが前提であり、プラスチックの大量リサイクルにしないことを柱とすべきである。 その上で、プラスチック資源の分別収集・再資源化事業にかかる経費に対応する財源確保を検討しておくべきである。	3Rの徹底により、ごみや資源物の最小化を進めることを基本とするとともに、持続可能な財源確保策についてさらに検討します。
(7)	資料1 P14, P18	再商品化の手法等について、学習できる機会を設けることにより、質の良いプラスチック資源の量を確保できることにつながるため、市民等が再商品化施設の見学や、市HPで学習できるようにしていただきたい。	市民の皆様が再商品化施設の見学や、市HPで学習できる環境を整えます。